

OPINION ツアーコンダクターへの期待

この3月からTCSA理事に就任いたしました有野です。編集部よりオピニオンの原稿依頼がありましたので、私の経験談をご紹介します。

天安門事件発生と退避勧告

私は1988年から3年間、当時勤務していた運輸省(現国土交通省)から外務省に出向し、在中国大使館で勤務していました。1989年6月に北京で天安門事件が発生し、大使館員は総出で邦人の安全確保と緊急帰国の支援に追われました。私は天安門広場に近い北京飯店で、6月3日深夜から4日早朝まで状況を見守りましたが、長安街の広い道をバスやタクシーでなく、中国人民解放軍の戦車が轟音を立てて走っていました。軍用トラックから発砲される光景は、まるで映画のワンシーンを見ているようでした。その後も、情勢把握のために自転車大使館から天安門広場周辺などを回りましたが、もし流れ弾に当たっていたらと思うと、今でも怖くなります。

外務省の退避勧告を受け、運輸省の要請で日本人の緊急帰国のため、JALとANA両社の臨時便が運航されました。大使館員は激戦地を含む市内各地にいる日本人をバスで迎えに行き、空港まで送りました。北京空港は出国する外国人が殺到して大変混雑していました。日本への臨時便ですので日本人の搭乗を優先し、外国人は断るべきだとの意見がありましたが、外国人と一緒に避難する日本人も多く、チャーター便でもない臨時便で外国人を断ることはできないと申し上げました。幸い両航空会社の特段のご協力で、現地のパニックは起こらず、多くの日本人が無事に帰国できました。緊急時、外国で日本人が搭乗拒否される事態はあってはならず、困ったときほど助け合いの精神で対応しなければならないと思います。このような事態に遭遇した場合、ツアーコンダクターの役割は大変重要だと思います。

スイスでの思い出

天安門事件の翌夏、中国の出来事の緊張を癒したい気持ちも

あり、子供2人を連れ家族4人、個人旅行でスイスのユングフラウヨッホを訪れました。麓の駅で登山電車に乗り出発を待っていたところ、日本人団体客が到着。ツアーコンダクターから乗り合わせた乗客に対し、「この車両は貸切りなので席を譲って欲しい」と言われました。その後、駅員も呼ばれ我々に対する説得が始まりましたが、その車両には貸切の表示もなされておらず、納得できませんと申し上げました。車中、お怒りになったツアーコンダクターから日本人として非常識だとの言葉と冷たい視線を受けながら、列車は目的地に到着しました。旅行に参加されたお客様が快適に旅行される環境づくりは、ツアーコンダクターの使命として当然のことと思いますが、同じく一生に一度の旅行をしている他の旅行者もあります。アルプスの景色とともに、車中での出来事はヨーロッパ旅行のひとつの思い出になりました。



TCSA理事
社団法人全国旅行業協会
専務理事

有野 一馬氏

ツアーコンダクターへの期待

旅行は自然災害、事件、事故、国際情勢などと密接に関わり、リスクが付き物ですが、そのリスクを避けて安全に安心して旅行をしていただくため、ツアーコンダクターの皆様が果たす役割は益々重要になっています。高齢化社会を迎えた今日、これまでの個人旅行から、団体旅行に切り替えて参加する旅行者は着実に増えていくでしょう。頼れるツアーコンダクターと一緒に旅行できることは大きな安心材料です。一人では旅行ができない方々の安心と旅の思い出づくりのためにも、ツアーコンダクターの皆様の御健闘を心よりお祈りします。

CONTENTS

OPINION ————— 1

ツアーコンダクターへの期待
社団法人全国旅行業協会
専務理事 有野 一馬氏

特集 ————— 2

東日本大震災時の添乗経験

TOP INTERVIEW ————— 4

(株)ツーリストエキスパート所属 ツアー・ディレクター
高木 英二氏をお訪ねして

TCSA REPORT ————— 6

添乗あれこれ
～添乗の現場から～

TCSA REPORT ————— 7

「旅程管理研修」10月～12月の実施日程のお知らせ
派遣元責任者講習会スケジュール(10月～12月)
2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ㊟

TCSAだより ————— 8

「添乗員能力資格認定試験」実施／近畿運輸局長表彰受賞
会員動向 編集後記

特集!

東日本大震災時の添乗経験



東日本大震災から1年半が過ぎましたが、添乗中に大震災に遭遇した2名の添乗員が現場でどのようにお客様の安全、誘導、人命確保を行ったかを寄稿してもらいました。

万が一に備え“もしものことが起きたら”添乗員としてどう対応したらよいか参考になれば幸いです。

小さい頃からの地震に対する意識が生きた 東日本大震災

(株)エスティーエス
添乗員 堀川 陽功さん



私は岩手県で高校まで過ごし、宮城県の専門学校を出て念願の添乗員になり、わずか半年で添乗中に東日本大震災に遭遇しました。

2011年3月10日出発、名古屋発の仙台空港受け地型の東北地方周遊ツアーを担当し、1日目は無事に終了しました。翌日11日は岩手県宮古地区で昼食した後、観光していた際に震災に遭いました。地震直後は海岸線にいたことから津波や道路の陥没など、あらゆる被害が想定され、お客様の不安を取り除くことも考え、バスの乗務員と相談の結果、すぐにバスに乗り込んで内陸部の高台に移動しました。とにかく、内陸部へ移動する! という冷静で迅速な判断がよかったように思われます。岩手県出身で小さい時から地震に対する意識や対応が身についていたことが、添乗員として“お客様の人命を守る”という最大の対応ができたのではないかと思います。

私の所属している仙台営業所自体が震災の影響で全域停電となり、社内電話や携帯電話共に全く不通の状態が続き内勤者からの指示も受けられない状態でしたが、名古屋の旅行会社と不幸中の幸いで連絡が取れ、旅行会社の指示のもと行程を進めました。その日の宿泊予定であった鳴子温泉のホテルと連絡が全くとれず、宿泊の可否が不明のことから少しでも南下するべきとの判断で一ノ関まで移動し、代替の宿泊できるホテルを探しました。名古屋への帰路は、津波の影響を直接受けた仙台空港は駐機していた航空機や車などを根こそぎ流され使用できなく、JRも当分の間不通となっていたため、東北地区から名古屋までバスでの移動を余儀なくされました。

ツアーで使用していたバスは、どうしてもそのまま使用できないとのことで、急遽別の代替バス会社へバスを手配し乗換え、名古屋に向かいました。東北高速道路も所々閉鎖され、一般国道で目指すことになりました。途中で立ち寄れる場所を見付けてはトイレ休憩と食材確保をしながら、16時間ほどかけ名古屋に早朝4時に到着。お客様を全員無事に名古屋までお送りしました。旅行会社への終了報告をして帰途仙台に向けて出発しましたが、バスや電車など不通区間も多く、途中何度も足止めを食いながら、2日目の3月15日ようやく宮城県に戻りました。

添乗中の大地震の経験を振り返ってみますと、小さい時から自然に身につけていた地震や津波に対する対応が生きていたのかもしれませんが、私は、添乗の経験が浅かったにもかかわらずお客様を無事に名古屋までお送りすることができ、結果的に人命を守る「安全管理」ができ本当によかったと痛感しております。

岩手の実家、仙台市の自宅がそれぞれ被災し、さらに、仙台空港に駐車していた自家用車も津波に流されましたが、「命があったことがすべて」と気持ちを整理しています。一番の喜びは、その後に届いたお客様からのお礼の手紙と旅行会社担当者からのお褒めの言葉でした。



※写真はイメージです。

人との絆を痛感した東日本大震災

(株)旅行総研

専属添乗員 深井 恵美さん



私はこの東日本大震災の体験を通して、人間の絆の大切さを改めて感じました。

2011年3月11日、私は41名と比較的大人数の三陸海岸2泊3日コースの添乗に出発しました。その日の行程は、東京駅から新幹線に乗り八戸駅で降りた後、岩手県北部の田野畑村にあるホテル羅賀荘へ向かう、ゆったりとしたコースでした。順調に進み14:40分頃ホテルに到着しました。そして、その直後14:46分に地震が発生しました。

今までに体験したことがない揺れで、窓ガラスが割れてしまうのではないかと、という程でした。揺れがおさまった後、すぐにホテルの方がラジオをつけ大津波警報が出されたことを知りました。ホテルのすぐ裏手が海岸だったため、避難することを決意。既に半数ほどのお客様は部屋に入っていたため急いで呼び戻し、バスで高台にあるアズビィ体育館に避難しました。

私たちが避難した直後、宿泊予定だったホテルは津波の被害に遭い5階まで浸水。急いで避難したため、間一髪で津波から逃れました。付近の民家など小さい建物は、ほとんど流されていました。東北新幹線も止まり帰れなくなったため、私たちは停電で夜は真っ暗な避難所での生活を余儀なくされました。雪も降り、本当に寒かったことを覚えています。携帯電話の基地局も流され、ずっと圏外の状態でした。そんな中、避難所では私たち観光客にも炊き出しや毛布を分けていただきました。家を流され避難してきた方ばかりで、いつまでこの生活が続くかわからない中、貴重な食料を分けてもらい本当に人の温かさを感じました。

3日目の3月13日、ようやく上越新幹線が復旧したというニュースを聞き、ホテルの方が山形県の酒田駅まで送ってくださいました。岩手から酒田駅まで長距離にも関わらず、送っていただき本当にありがたく感じました。そして、どうにか酒田駅からJRに乗り、新潟駅経由で無事に東京駅に到着しました。

東京に戻りニュースを見て、改めて今回の震災の被害の大きさを知り驚きました。ケガ人や病人もなく無事に帰ってこれたのは本当に奇跡だったと思います。振りかえれば、ホテル羅賀荘の避難対応指示、迅速な避難誘導、適切な避難所への案内、羅賀荘の酒田駅までの送り、派遣元や派遣先の的確な指示などがお客様の人命確保となり、「安全管理」と「旅程管理」に繋がったように思えます。

自分ひとりの力ではこの状況を乗り越えることはできなかったと思います。周りの方の優しさに助けられてばかりでした。次は私がこの添乗という仕事を通して沢山の方に優しさを与えられるようになりたいと思います。

東日本大震災時に数多くの旅行者がいたにもかかわらず、1人の死傷者を出すことなく全員無事に帰宅することができたことは、添乗員や関連するサプライヤーの方々のご協力や努力の結果だと考えます。日頃から「もし何かが起きたらどう対応したらよいか」添乗員自身考えておく必要があると思います。一読して参考にしてください。

(株)ツーリストエキスパート所属 ツアー・ディレクター

高木 英二氏

昨年、国土交通大臣賞を受賞された(株)ツーリストエキスパートの高木英二さんをお訪ねしました。20代で添乗を始め、38年間に6,600日以上海外添乗を経験しており、まさに“添乗が天職”のツアー・ディレクターでいらっしゃいます。

三橋専務理事(以下 三橋) この度の大臣表彰おめでとうございます。前回インタビューさせていただいた茂木隆一さんが、高木さんと一緒に受賞できたことが本当に嬉しかったと何度もおっしゃっていました。

高木英二氏(以下「高木」) 茂木さんとは、長年家族ぐるみでお付き合いしてもらっています。お互いに添乗中もよく会い、楽しいことも苦しいことも一緒に乗り越えてきた仲間でございます。



持ちが次第に強くなりました。中学1年生のときに将来は旅行の仕事に就きたいと自分の中で決めました。

そして、高校2年の夏休みの約1か月間、旅行部で丁稚奉仕をし、旅行会社がどのような仕事をしているかを知り、良い勉強になりました。10月頃にその旅行会社から「45日間のヨーロッパ旅行に行ってみないか」という誘いを受けました。当時は公立の高校に通っていたため、45日間休むことは容易にできることではなく、思い切って学校の校長先生に直訴しました。誰も自由に海外に行くことができなかった時代でしたが、最終的に帰国したら体験談を全校生徒の前で発表をする条件で許可されました。旅行中は、ヨーロッパのさまざまなレストランやホテルなどを巡って、現地の方々に話しかけたりして過ごしていくうちにヨーロッパの虜になりました。帰国後は、校長先生との約束通り全校生徒の前で体験談を発表しました。この旅行に参加していなかったら今の自分はないと思っています。旅行業界へ進むきっかけを作ってくれた両親と学校の先生方には本当に感謝しています。

三橋 高校を卒業後は旅行業界に就職なさったのですか。

高木 いいえ。英語の専門学校に進学した後、貿易商社に2年程勤め、その後旅行会社に就職しました。旅行会社では6年間勤めた後、知人の紹介で添乗員派遣会社ツーリズムエッセンシャルズ(株)【現(株)TEI】に所属して、現在(株)ツーリストエキスパートに所属しております。

三橋 茂木隆一さんもその頃TEIにおられたのですね。現在はどのような添乗をなさっているのでしょうか。

高木 パッケージツアーが7割で、あとは支店のツアーと「高木英二と行くツアー」を毎年行っています。今年の9月にも12日間でヨーロッパへ行く予定です。また、有名タイヤメーカーのインセンティブツアーも10年程担当しております。

三橋 話は変わりますが、ご結婚をされたのはいつでいらっしゃいますか。

高木 29歳の時に結婚しました。子供が2人、孫が4人います。「おじいちゃん」添乗員というところでしょうか。添乗から帰ってきて孫と遊ぶことが今は一番の癒しですね。私の子供が幼い頃は、多い時は年間で290日添乗に出ていたため、子供達にはかわい

小学生時代の「夢」を実現

三橋 高木さんが初めて添乗されたのはいつ頃でいらっしゃいますか。

高木 24歳の時ですので、40年前になります。私は中学1年生の頃、この仕事に就くことを決めました。きっかけは小学校5、6年生のとき、栃木県でスウェーデン人の宣教師に英語を教わったことです。その頃は外国人を見ることも初めてで、その方からヨーロッパの写真を見せてもらったりして、海外に興味をもち始めました。また、船会社の旅行部に勤務していた遠い親戚からヨーロッパの話の聞いたりしているうちに、ヨーロッパに行きたい気

そんな思いをさせてしまったという思いはあります。最多添乗賞をいただいたこともあるほどでしたので。私は日本にいるより添乗が好きなので、家族はもう仕方がないと思っているのではないのでしょうか。添乗の合間も次のツアーに行きたい思いが強いです。私は視察のツアーが多いですが、その添乗中は来年のツアーを取るつもりで情報収集をしています。添乗員は営業マンでもなければならぬと思っています。ですので、ツアー中にオーガナイザーから来年の希望などを入手することが大事です。

プロフェッショナルとしてのミッション

三橋 添乗なさる時にはどんな点を心がけていらっしゃいますか。

高木 名刺には個人のEメールアドレスを入れ、いつでも、どなたにでもヨーロッパ情報を役立てていただけるように努めています。



三橋 高木さんにとって添乗のお仕事はまさに「天職」でございませぬ。

高木 本当に添乗は大好きです。お客様の喜ぶ顔が見たいということと、近畿日本ツーリストのファンを作る、リピーターを作る、他社に勝つための添乗をすることが自分の仕事だと思っています。添乗員は、旅を演出する「ドリー

ムメーカー」としてお客様が今何を欲しているのかを一番知っています。それを反映した企画をしていただくために企画担当者ともよく意見交換するようにしています。何をしたらお客様が一番喜んでくれるかを常に心がけています。

先日エジプトのナイル川クルーズのツアーで、他社のお客様が私のところに来て、「あなたは3度お客様の席に来たけど、うちのツアーの添乗員は1度も来なかった」と言われました。ツアーに参加されたお客様は自分の“家族”だと思って接し、決して手を抜くことはしません。機内やバスの中でも寝ないようにしていますし、食事や機内でもできるだけお客様と一緒に席がよいと思っています。最近の飛行機は、個人チェックインが多いため難しくなりましたが、知らないお客様と話すより自分のお客様と話している方が楽しいので、迷惑をかけない程度にお客様と話すようにしています。

忘れられない米国添乗中の9.11事件

三橋 長年添乗を続けられて「スランプ」は感じられませんか。

高木 スランプといいますが、今までで一番ショックだったのは9.11です。前日の同時刻にワールドトレードセンターにおり、事故

当日は現場から2キロのホテルに宿泊していました。クラッシュする様を17名のお客様とともに目の当たりにしました。自分達が1日前に行っていた場所でもあり、非常に辛い出来事でした。それから5日間はおお客様のケアもあり、一睡もできませんでした。3日間マンハッタンにいましたが、救急車や消防車のサイレンが24時間なりっぱなしで、精神上よくない状況の中、お客様の中には言動が少しおかしくなってきた方がいらっしゃいました。このままここにはまずいと思い、ニュージャージーに移動し、事故のことを忘れるために、テニスをしたりゴルフをしたりショッピングに行ったりという提案をして過ごしてもらいました。映像では伝わらない、降り積もるようなほこりであったり、3,500人が亡くなっていたため、その臭いはすさまじいものがありました。事故から2年後にニューヨークに行った際も目を閉じるとトラウマのようにあのシーンが出てきて「グランドゼロ」には降りれませんでした。しかし、お客様が全員無事だったのが不幸中の幸いでした。

三橋 お察しするには余りあるご経験でしたね。最後にTCOSAへのご要望や期待などをお聞かせくださいませ。

高木 添乗員が同行するツアーは無くならないと思うので、一人でも多くの若い人達が夢を持って仕事ができるような環境整備、待遇改善をお願いしたいです。添乗できちんと安定した生活ができ、一人でも多くの添乗員が長く働けるような環境になるようご尽力いただきたいと思っています。

三橋 おっしゃる通りでございます。派遣先の旅行会社があつてのことですので、改善に向けては思うように進まない所もありますが、これは協会の設立目的そのものです。引き続き努力してまいります。高木さんのようなお客様に支持されるプロフェッショナルがもっと増えれば、旅行会社にもそれなりの処遇をきちんとしていただけるのではないかと考えています。

午後からお仕事でお忙しい中、本日は貴重なお話を長時間ありがとうございました。これからも益々のご活躍を期待しております。



1時間を超えるインタビューを終え、「ぜひとも“高木英二と行くヨーロッパツアー”に参加したい!」との思いを強くいたしました。





添乗 あれこれ

～添乗の現場から～ 第1回

現役の添乗員が、添乗現場で最近感じることやエピソードを自由に寄稿いただくコーナーです。

トルコの陽光

(株)ジャッツ
東京ツアーコンダクターセンター所属

添乗員: 吉原 敏美津さん
(添乗歴17年 3,600日)

ツアー出発前は毎回のことですが、緊張と不安がつきまといます。いかにお客様に喜んでいただくか、事故なく安全に日本に帰国するか、添乗という仕事において永遠の課題だと思っています。主催旅行には新婚旅行、新しい人生の門出、親孝行旅行、卒業旅行、仕事で疲れた体や精神を休める自分自身へのご褒美旅行など、さまざまな事情を抱えて参加なさるお客様がいらっしゃいます。

先日、トルコのツアーで1組の親子が参加され、ご高齢のお父様は夏の暑い中、汗をかきながら観光をしておられました。旅行中、楽しそうに娘さんと過ごしていただき、無事に日本に帰国した成田空港での別れ際、娘さんから「父はあと余命6カ月なのです。今回の旅行で楽しい思い出をたくさん作っていただき感謝しています。本当にありがとうございます」と言われました。その言葉をいただいた時、私はひどく後悔しました。あの時こうすればもっと楽しんでいたか、もっと喜んでいただけるサービスがあったのではないかと感じました。人生最後となるかもしれないご旅行を、私と一緒にしていただけてよかったのだろうか。私には何ができたのだろうか・・・と。

プロの添乗員として業務をする中で手抜きがあってはいけない
手抜きは事故に繋がり、自分自身後悔することになる
お客様に対して常に全力投球で接する
初めて添乗した時の気持ちの一生懸命さを忘れない
改めてそう思いました。

つい最近まで、添乗員は舞台に立つ役者だと思っていました。完璧な演技でお客様に感動していただく。しかし、演技ではない真実の自分、真実の心を持って接しないと、お客様に対して失礼になり、後悔の念で情けない気持ちになるのだと実感しました。

添乗員は常日頃“人として”自分を磨いて成長させていくことが、本当の意味での“お客様商売のプロ”といえるのではないかと感じる今日この頃です。旅は型がありません。最後はやはり人と人との“心”の繋がりだと思います。

「旅程管理研修」10月～12月の実施日程のお知らせ

地 区	実施コース	実施日程	申込締切日
札 幌	国内研修	10月 11日(木)・12日(金)	10月 4日(木)
	国内・総合研修	12月 3日(月)～ 5日(水)	11月 26日(月)
東 京	国内・総合研修	10月 16日(火)～18日(木)	10月 9日(火)
	国内研修	11月 6日(火)・ 7日(水)	10月 30日(火)
	国内・総合研修	12月 11日(火)～13日(木)	12月 4日(火)
名古屋	国内・総合研修	12月 5日(水)～ 7日(金)	11月 28日(水)
大 阪	国内研修	10月 16日(火)・17日(水)	10月 9日(火)
	国内研修	11月 8日(木)・ 9日(金)	11月 1日(木)
	国内・総合研修	12月 11日(火)～13日(木)	12月 4日(火)
福 岡	国内・総合研修	12月 11日(火)～13日(木)	12月 4日(火)
那 覇	国内・総合研修	12月 5日(水)～ 7日(金)	11月 28日(水)

※「国内・総合研修」コースで実施する場合、国内コースは1日目・2日目の受講となります。受講前日までであれば受講取消料は無料、もしくは受講日程延期の対応をいたします。研修修了確定(締め切り時点で国内・総合コース5名以上申込)の場合、申込締切日以降であっても基礎教本相当研修修了者については、受講前日まで受付いたします。

派遣元責任者講習会 スケジュール

(10月～12月)

右記日程で開催します。

講習時間10:00～17:00
お申込:TCSAホームページより

開催地	開催日	受付状況	会場
東 京	10月 15日(月)	受付中	大井町きゅりあん
東 京	10月 24日(水)	受付中	大井町きゅりあん
東 京	11月 19日(月)	受付中	大井町きゅりあん
東 京	11月 29日(木)	受付中	エッサム本社ビル
東 京	12月 7日(金)	10/2から受付開始	エッサム本社ビル
北海道	12月 14日(金)	10/5から受付開始	北海道建設会館

2000日添乗員のコツコツ奮闘記

連載 ④5



平成23年度 総合1級「添乗員能力資格認定試験」の小論文から優秀作を掲載

(株)JTBサポートプラザ
奥西 佐智子さん

私は安全管理を的確に行うために、過去に起こったトラブルにどのように対処したか、自分なりにシミュレーションをしている。添乗現場では、緊急時の迅速な対応が必要で、普段から現地の手配会社との信頼関係を良好に保てるように心がけている。また、お客様は添乗員の指示に従っていただかなければならないこともあるので、早い段階で信頼を得られるように努めリーダーシップを発揮できるようにしている。

トラブルが起こる前に、訪問国の歴史や文化を交えて以下の3点を話す。

- 1.国の情勢(なぜ情勢が悪くなったかを含め日本では考えられないことが起こり得ること)
- 2.自己責任(外国ではご自身の行動に責任を持っていただくこと。例えば、立入禁止の看板の無い氷河やクレパスに近づくなど)
- 3.旅行会社の免責事項(トラブルの原因が免責事項に当たってはお客様負担となること)

この3点をやわらかくお伝えすることで、未然にトラブルを最小限に防げると考えている。また、トラブルが起こってからは常に冷静でいること、正しい情報を迅速に入手すること、お客様の不安を少しでも取り除くためにいつでも笑顔で対応することを心がけている。決してひとりで解決しようとせず、旅行会社や現地オペレーター、派遣元会社へ報告・連絡・相談を習慣づけている。他社の添乗員を含め情報交換や協力し合うことも必要であると考えている。

次に大切なことは、下調べをよくしておくことだ。トラブル発生で延泊となった際に、滞在都市の小旅行の提案ができるよう周辺地域の最新情報などを入手して、楽しんでいただけるよう誠心誠意努めるようにしている。

最後に、添乗員は緊急事態に遭遇した時、お客様と一致団結してともに苦難を乗り越えて無事帰国し喜びを分かち合う前向きな姿勢を示し、希望を持つことだと考えている。その結果、頼もしい添乗員であったと思われ、次回も同じ旅行会社を利用していただけるように、プロ意識を持って対応する事が添乗員の使命だと考えている。



平成24年度「添乗員能力資格認定試験」平成25年1月23日(水)に実施

添乗員業務の閑散期間での実施希望があり今年度は1月に行います。添乗業務に関する能力を客観的に判断するよいチャンスです。詳細は後日連絡いたします。

受験級 1級～3級
受験資格 1級は2年以上、または200日以上添乗日数
2級は1年以上、または100日以上添乗日数
3級は学生や一般人でも受験可能

TCSA だより

平成24年度、近畿運輸局長表彰に16名のツアーコンダクターが受賞

TCSAから推薦の結果、本年度近畿運輸局長表彰に過去最高の16名のツアーコンダクターが受賞されました。8月2日(木)には表彰式が開催され、受賞者16名のうち、8名の方々が出席されました。

近畿運輸局長表彰受賞者

池口 比沙子さん (JTBサポートプラザ所属)	米田 雅之さん (ツーリストエキスパーツ所属)
川西 一子さん (JTBサポートプラザ所属)	青木 伸章さん (ティーシーエイ所属)
川端 さとみさん (JTBサポートプラザ所属)	小林 義弘さん (ティーシーエイ所属)
手嶋 恭子さん (JTBサポートプラザ所属)	山崎 和正さん (ティーシーエイ所属)
久保 務さん (ツーリストエキスパーツ所属)	荒木 裕美さん (フォーラムジャパン所属)
四方 真弓さん (ツーリストエキスパーツ所属)	清永 尚子さん (フォーラムジャパン所属)
引口 清穂さん (ツーリストエキスパーツ所属)	南田 実穂さん (フォーラムジャパン所属)
百合 道弘さん (ツーリストエキスパーツ所属)	山本 浩さん (フォーラムジャパン所属)

※所属会社アイウエオ順



前列左から引口さん、四方さん、近畿運輸局長、池口さん、荒木さん
後列左から山本さん、小林さん、久保さん、米田さん

正会員

●代表者変更(順不同・敬称略 < >内は前任者)

(株)阪急トラベルサポート

代表取締役社長 宮原 芳雄 <松田 誠司>

(株)ボイスエンタープライズ

代表取締役社長 安井 豊明 <堀江 健夫>

(株)JTBビジネスサポート九州

代表取締役社長 宮津 哲郎 <久重 和夫>

●営業所開設

(株)旅行綜研 神戸営業所

〒650-0031

兵庫県神戸市中央区東町126番地 神戸シルクセンタービル5階

電話番号:078-325-1855 FAX番号:078-332-7107

●営業所閉鎖

(株)旅行綜研 長崎営業所

●住所変更

(株)阪急トラベルサポート

新住所:〒530-0001

大阪市北区梅田2-5-25 ハービスOSAKA14階

*10階から14階に移転しました

*営業企画課のFAX番号のみ変更

新FAX番号:06-4795-5742

(株)日旅九州エンタプライズ

新住所:〒812-0011

福岡県福岡市博多区博多駅前3-2-1 日本生命博多駅前ビル12階

*電話・FAX番号は変更なし

(株)トップ・スタッフ 九州支店

新住所:〒810-0002

福岡県福岡市中央区西中洲12-33 福岡大同生命ビル12階

*電話・FAX番号は変更なし

(株)ボイスエンタープライズ

新住所:〒170-0013

東京都豊島区東池袋1-9-6 jobビル7階

新電話番号:03-5952-1204 新FAX番号:03-5952-1205

会員動向

賛助会員

●代表者変更(順不同・敬称略 < >内は前任者)

東京観光専門学校

校長 玉井 正人 <瀬尾 良晴>

●住所変更

(株)グローバルユースビューロー 東京本社

新住所:〒107-8412

東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ6階

*電話・FAX番号は変更なし

特定非営利活動法人 日本ヘルスツーリズム振興機構

新住所:〒140-8602

東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル6階

新電話番号:03-5796-5629

●法人の変更

公益財団法人 日本交通公社

*4月1日から公益法人改革で公益財団法人へ移行

委員委嘱辞退

●添乗員能力資格認定委員会

(株)ジャッツ 大谷 明

委員委嘱変え

●添乗員厚生委員会

(株)エスティース 忽那 裕 <小野 嘉壽>

(株)阪急トラベルサポート 伊東 由美 <川上 忠宏>

●研修委員会

(株)エスティース 小野 嘉壽 <調 健太郎>

(株)阪急トラベルサポート 片桐 裕一 <細野 義人>

(((編集後記)))

祝日の「海の日」。東京都美術館で開催されていた「マウリッツハイス美術館展」に行ったのだが、入場まで80分待ちであった。フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」がメインのこの美術館は、オランダのハーグにあって多くの人が鑑賞しているだろうが、この人たちが添乗員つきの美術館めぐりツアーにもっと参加してくれたら、などと感じたのは私だけだろうか。(M・B)

社団法人 日本添乗サービス協会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階

TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698

E-mail tcsa@tcsa.or.jp

URL <http://www.tcsa.or.jp/>